

---

# WebEngine ユーザのための WebComponent 移行ガイド

株式会社サトー

2019年7月12日

---

## はじめに

この度は、「Multi LABELIST V5 Web Engine」（以下、MLV5 Web Engine）をご購入頂きまして誠にありがとうございます。

MLV5 Web Engine は、弊社製汎用ラベル・タグ発行ソフトウェア「Multi LABELIST V5」(以下 MLV5) の資産を利用し、お客様のシステムにラベル/タグの発行・プレビュー機能を追加する開発支援ツールです。発行機能として「Multi LABELIST Web Component」（以下、MLWebComponent）、プレビュー機能として「Multi LABELIST Preview Component」（以下、MLPreviewComponent）を提供致します。

本マニュアルでは旧製品の Multi LABELIST WebEngine（以下 WebEngine）から WebComponent へ移行する際に必要なプロパティやメソッドの変更点をご説明しております。

プロパティ・メソッド毎の詳細な説明は、「[MLWebComponent リファレンスマニュアル](#)」をご参照ください。

◆本マニュアルは以下の環境で作成しています。

ソフトウェア	Multi LABELIST V5 (Ver.5.2.5.0) Multi LABELIST Web Component (Ver.5.2.5.0)
OS	Windows 7 (SP1)
記述例	JavaScript

## ご注意

- 本マニュアルの一部または全部を弊社の許可なく複写・複製することは、その形態を問わず禁じます。
- 本マニュアルの内容は、訂正・改善のため予告なく変更することがあります。
- 本マニュアルを運用した結果の影響については責任を負いかねますのでご了承下さい。
- 本マニュアルの内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
  
- SATO、Multi LABELIST は、サトーホールディングス株式会社の登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows は、米国マイクロソフト社の登録商標です。
- その他記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

# 目次

はじめに .....	2
ご注意.....	2
<b>第 1 章 変更機能.....</b>	<b>5</b>
1.コントロールを入替える.....	6
■入替え方法 .....	6
■クライアントの動作.....	7
2.変更する機能を確認する.....	9
■WebEngine プロパティ一覧.....	9
■WebEngine メソッド一覧.....	10
■FileAccessControl プロパティ一覧.....	11
■FileAccessControl メソッド一覧.....	11
3.プロパティを変更する.....	12
■Setting.....	12
■Protocol.....	12
■ExOutputAckCheck.....	12
■LayoutFile.....	13
■OutCut.....	13
■Siwake.....	13
■TaxRate.....	13
■Delimiter (FileAccessControl) .....	14
4.プロパティを削除する.....	15
■PrnPath .....	15
■MemoryCard.....	15
5.メソッドを変更する .....	16
■Output.....	16
■ExOutput.....	17
■ExInput、ExInputCount.....	18
■GetStatusVB .....	18
■GetFile.....	18
■GetPrinter.....	18
■GetHeaderLayoutFileVB.....	18
■GetTailLayoutFileVB.....	19
■GetInputCountVB.....	20
■GetInputFieldsVB .....	20
6.メソッドを削除する .....	21
■AboutBox.....	21
<b>第 2 章 新機能.....</b>	<b>22</b>

7.新機能を確認する.....	23
■WebComponent プロパティ一覧.....	23
■WebComponent メソッド一覧.....	24
■FileAccessComponent プロパティ一覧.....	24
■FileAccessComponent メソッド一覧.....	24
8.新しいプロパティを利用する.....	25
■Setting.....	25
■PrnData、PrnDataType.....	25
■MultiCut.....	25
■EjectCut.....	26
■SortMark.....	26
■HeaderTailSetting.....	26
■HeaderFile.....	26
■TailFile.....	26
■Formoverlay.....	26
■LayoutNameCaption.....	26
■TotalQtyCaption.....	26
■TaxRate.....	27
■Version.....	27
■FileDataType(FileAccessComponent).....	27
9.新しいメソッドを利用する.....	28
■GetLayoutFileProperty.....	28
■Output、SetPrnDataRow.....	28
■OutputHeader.....	28
■OutputTail.....	28
■SendStringData.....	29
■GetInputFields.....	29
■GetPrnDataRowCount、GetPrnDataRow.....	29
■GetDriverNameList.....	29
■ClearPrintJob.....	29
■EnumerateBluetoothDevices.....	29
■AuthenticateBluetoothDevice.....	29
■Authenticate.....	29

## 第1章

# 変更機能

## 1

## コントロールを入替える

## ■入替方法

WebEngine を WebComponent に入替えます。

## ■入替え方法

- ① サーバに配置している「MLmeControlWeb.cab」「MLmeControlWeb.lpk」「PrinterFiles.cab」を削除する。
- ② 「WebComponent-Installer-ja.exe」、「MLWebComponent.lic」を配置する。
- ③ WebEngine を利用しているページの object タグを変更する。

## • 変更前 (WebEngine)

```
<object id="MLmeControlWeb"
  height = "0" Width = "0" type="application/x-oleobject"
  classid="clsid:7AEC4101-7BCF-47C6-80E5-94478742DE71"
  codebase="MLmeControlWeb.cab#version=4,22,1,1">
</object>
```

## ⇒変更後 (WebComponent)

```
<object id="WebComponent"
  type="application/x-oleobject"
  classid="clsid:C137E319-41FE-4F0F-BD1F-190424FD7E2B"
  codebase="WebComponent-Installer-ja.exe"
  style="display:none">
</object>
```

## • 変更前 (FileAccessControl)

```
<object id="MLmeFileAccessControl"
  height = "0" Width = "0" type="application/x-oleobject"
  classid="clsid:C3F5CC56-8AB6-4C3C-B026-42838EE517AC"
  style="display:none">
</object>
```

## ⇒変更後 (FileAccessComponent)

```
<object id="FileAccessComponent"
  type="application/x-oleobject"
  classid="clsid:A3F14F83-0717-444B-9DE5-BFC3AF5C32E8"
  style="display:none">
</object>
```

## ④ ライセンス認証処理を追加する。

GetFile メソッドでライセンスファイル「MLWebComponent.lic」をクライアントにダウンロードし、Authentication メソッドで認証キーを指定し、ライセンス認証を行ってください。

## 記述例

```
var DownloadURL = "http://sato.xx.xx.jp/mlwcmp/ MLWebComponent.lic ";
MLComponent.GetFile( DownloadURL , "C:¥¥SATO¥¥" , 2 );
var LicenseKey = "d6aa8272-16f8-4c83-9b14-cf4b8fd35f1c";
MLComponent.Authenticate( LicenseKey , "C:¥¥SATO¥¥MLWebComponent.lic" );
```

## ⑤ .NET Framework 4.0 のインストール確認処理を追加する。

MLWebComponent を動作させるためには、クライアントに.NET Framework 4.0 が必要になります。Windows7 で利用する場合は、.NET Framework 4.0 以降を別途クライアント PC にインストールしてください。

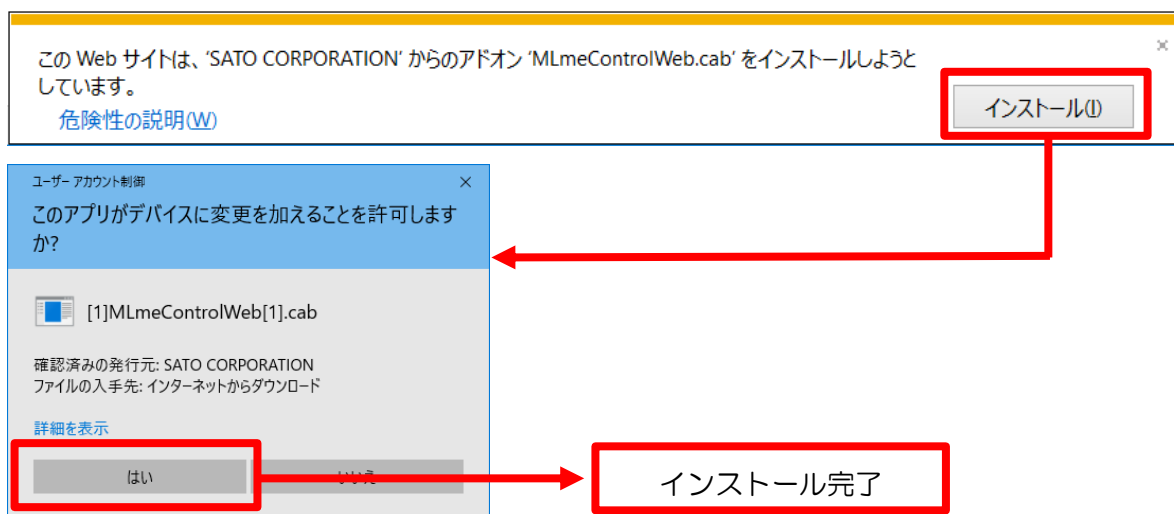
## 記述例

```
var ua = window.navigator.userAgent.toLowerCase();
var isWin7 = navigator.userAgent.match(/NT 6.1/);
var isDotNetFW4 = navigator.userAgent.match(/NET4/);
if (isWin7 && !isDotNetFW4){
    // .NET Framework 4.0 以降が必要なことを通知
}
```

## ■クライアントの動作

MLWebComponent は、クライアントでのインストール操作が WebEngine と異なります。

WebEngine はブラウザ上で「インストール」ボタンをクリックすることでインストールが完了します。



MLWebComponent は「インストール」ボタンをクリックして、インストーラからインストールを実行します。



インストーラを実行してインストール



インストール完了



## 2

## 変更する機能を確認する

■プロパティ一覧 ■メソッド一覧

WebEngine、FileAccessControl\*から変更された機能を説明します。

\* FileAccessControl は WebEngine に含むファイル操作制御です。

MLPreviewOCX は、「MLPreviewOCX ユーザのための MLPreviewComponent 移行ガイド (JavaScript 編)」をご参照ください。

MLJudgeOCX は、終了となり、MLV5 版は存在しません。恐れ入りますが、上位アプリケーションでレイアウトの振分処理の実装をお願いいたします。

## 移行の分類

- ◎：コードの変更は必要ありません。
- ：コードを変更せずに動作しますが、変更を推奨します。
- △：コードを変更してください。
- ×：コードを削除してください。

## ■WebEngine プロパティ一覧

プロパティ名	概要	移行
<b>通信設定</b>		
Setting	通信パラメータの設定	△
Protocol	通信プロトコルの設定	△
Timeout	通信タイムアウト値の設定	◎
ExOutputAckCheck	ACK/NAK確認の設定	○
StatusID	ステータスIDの設定	◎
JobName	ジョブ名の設定	◎
<b>基本設定</b>		
LayoutFile	レイアウトファイルの設定	△
PrnData	印字データの設定	◎
PrnPath	プリンタ情報ファイルの設定	×
<b>プリンタ動作設定</b>		
Darkness	印字濃度の設定	◎
Speed	印字速度の設定	◎
Offset	印字補正值の設定	◎
MultiCut	カット指定の設定	◎
OutCut	発行終了時のカットの設定	○
Siwake	仕分けマーク印字の設定	○
<b>特殊設定</b>		
Formoverlay	フォームオーバーレイの設定	◎
MemoryCard	メモリカード登録グラフィックの設定	×
LayoutNameCaption	「レイアウト名」の設定	◎

TotalQtyCaption	「総発行枚数」の設定	◎
TaxRate	税率の設定	△

### ■WebEngine メソッド一覧

メソッド名	概要	移行
<b>通信</b>		
OpenPort	通信ポートのオープン	◎
ClosePort	通信ポートのクローズ	◎
<b>発行</b>		
Output	ラベル発行	△
ExOutput	プリンタコマンドの送信	○
ExInput	受信データの取得	○
ExInputCount	返信データバイト数の取得	○
<b>プリンタ制御</b>		
GetStatusVB	プリンタの状態確認	△
Cut	発行中のカット	◎
SendCancel	発行のキャンセル	◎
<b>レイアウト情報取得</b>		
GetFile	ファイルのダウンロード	△
GetPrinter	プリンタ情報の取得	△
GetHeaderLayoutFileVB	ヘッダ札レイアウトの取得	○
GetTailLayoutFileVB	テール札レイアウトの取得	○
<b>印字データ指定</b>		
GetInputCountVB	入力情報数の取得	△
GetInputFieldsVB	入力情報の取得	△
SetPrnDataField	入力項目の印字データ設定	◎
<b>バージョン情報</b>		
AboutBox	バージョン情報	×

## ■FileAccessControl プロパティ一覧

プロパティ名	概要	移行
<b>基本設定</b>		
FilePath	ファイルパス名の設定	◎
Delimiter	区切り文字の設定	△
CacheSize	キャッシュサイズの設定	◎
<b>データ取得</b>		
RecordCount	データのレコード数の取得	◎
RowData	印字データの取得	◎
<b>カレントレコード位置</b>		
RowPosition	カレントレコード位置の設定	◎
BOF	カレントレコードが最初のレコードより前にあるかどうか	◎
EOF	カレントレコードが最後のレコードより後にあるかどうか	◎

## ■FileAccessControl メソッド一覧

メソッド名	概要	移行
<b>ファイル操作</b>		
OpenFile	ファイルのオープン	◎
CloseFile	ファイルのクローズ	◎
RemoveFile	ファイルの削除	◎
<b>カレントレコード移動</b>		
Move	カレントレコードを移動	◎
MoveNext	カレントレコードを次のレコードに移動	◎
MovePrevious	カレントレコードを前のレコードに移動	◎
MoveFirst	カレントレコードを先頭のレコードに移動	◎
MoveLast	カレントレコードを末尾のレコードに移動	◎
<b>バージョン情報</b>		
AboutBox	バージョン情報の表示	×

## 3

## プロパティを変更する

■Setting ■Protocol ■ExOutputAckCheck ■OutBufferCount ■LayoutFile

コードの変更が必要なプロパティについて説明します。

### ■Setting

- パラレルポート、専用ドライバが使用できなくなりました。プリンタドライバもしくは他のインターフェース出力（USB、LAN、COM）をご利用ください。

#### 使えない記述例

```
MLmeControlWeb.Setting = "LPT1:";
```

```
MLmeControlWeb.Setting = "ODV:MR410e";
```

- 連番変数を使用したレイアウトは、インターフェース出力で使用できなくなりました。連番変数を使用する場合は、プリンタドライバ出力（DRV）に変更してください。
- 多面取り（小ラベル）を使用したレイアウトは、データが1シート以上になる場合、インターフェース出力では使用できなくなりました。多面取りを使用する場合は、1シート毎にデータを指定して発行するか（例として3面取りの場合は発行枚数は3枚まで）、プリンタドライバ出力（DRV）に変更してください。
- プリンタドライバ出力時に Windows 7 では Output メソッドを実行する度に、一つ前の Output メソッドでスプールされたデータがプリンタに送信されていましたが、Windows 10 は OS の仕様変更によりスプールデータが256KB毎に送信されます。すぐにプリンタにデータを送信するには、Output メソッド直後に ClosePort を実行してください。

### ■Protocol

- ラパン用プロトコル(LapinCOM、LapinIrDA、LapinCOM\_CRC)と ReadyBusy が使用できなくなりました。Status3 もしくは Status4 をご利用ください。

#### 使えない記述例

```
MLmeControlWeb.Protocol = 2;
```

```
MLmeControlWeb.Protocol = 3;
```

```
MLmeControlWeb.Protocol = 4;
```

```
MLmeControlWeb.Protocol = 5;
```

### ■ExOutputAckCheck

- ExOutput、ExOutputB は互換性のために動作しますが、サポート対象外となりました。機能追加・改善は行いませんので、SendStringData、SendRawData への変更をお願い致します。

詳しくは「[メソッドを変更する](#)」をご参照ください。

## ■LayoutFile

- レイアウトファイルの拡張子を mllay から mllayx に変更してください。

### 変更する記述例

```
MLmeControlWeb.LayoutFile = "C:¥¥sato¥¥label.mllay";  
⇒ WebComponent.LayoutFile = "C:¥¥sato¥¥label.mllayx";
```

## ■OutCut

- 互換性のために動作しますが、OutCut プロパティに「1」を設定したときのカット動作が WebEngine と異なります。EjectCut プロパティ、MultiCut プロパティへ変更をお願い致します。

### 変更する記述例

```
MLmeControlWeb.OutCut = 0;      ⇒ WebComponent.EjectCut = false;  
MLmeControlWeb.OutCut = 2;      ⇒ WebComponent.EjectCut = false;  
                                WebComponent.MultiCut = -1;
```

```
MLmeControlWeb.OutCut = 1;  
(排出カットを利用する場合) ⇒ WebComponent.EjectCut = true;  
(排出カットを利用しない場合) ⇒ WebComponent.EjectCut = false;  
                                WebComponent.MultiCut = -2; ※
```

※レイアウトファイルの発行時動作設定で、カット動作を「発行指示単位ごとに行う」に設定し、「排出カットを使用する」を無効にしてください。

## ■Siwake

- 互換性のため動作しますが、SortMark プロパティへ変更をお願い致します。

### 変更する記述例

```
MLmeControlWeb.Siwake = true;   ⇒ WebComponent.SortMark = true;  
MLmeControlWeb.Siwake = false; ⇒ WebComponent.SortMark = false;
```

## ■TaxRate

- [税率]を複数指定するために、設定値が数値型 (Integer など) から文字列型 (String など) に変更されました。設定・取得している変数の型を変更してください。

## ■Delimiter (FileAccessControl)

- 名称を FileDataType プロパティに変更してください。

### 変更する記述例

MLmeFileAccessControl.Delimiter = 0;	⇒ FileAccessComponent.FileDataType = 0;
MLmeFileAccessControl.Delimiter = 1;	⇒ FileAccessComponent.FileDataType = 1;

## 4

### プロパティを削除する

■PrnPath ■MemoryCard ■COMMode

コード上から削除が必要なプロパティを説明します。

#### ■PrnPath

- アプリケーションと共に配布していたプリンタ毎の情報を格納したプリンタ情報ファイル (PrnObject.mlprn、PrnCommand\*.mlprn (\*: プリンタNo)) が必要なくなりましたので、プロパティを削除してください。

#### ■MemoryCard

- MLV4 のメモリーカードマネージャー機能は MLV5 で利用できませんので、プロパティを削除してください。

## 5

## メソッドを変更する

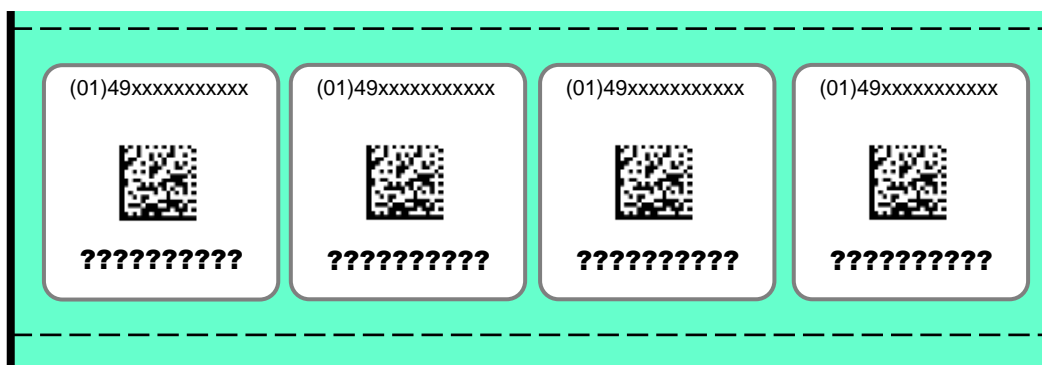
■Output ■ExOutput ■ExOutputB ■ExInput ■GetPrinter

コードの変更が必要なメソッドについて説明します。

## ■Output

- 印字データに発行枚数が指定されていない場合に、エラー802 が返送されます。PrnData プロパティまたは SetPrnDataField メソッドで入力するデータをご確認ください。
- MLV4 の小ラベルモードを利用したレイアウトは、プリンタドライバ以外では 1 シート以上の発行枚数を指定して発行できません。Setting プロパティをプリンタドライバ出力に変更するか、PrnData プロパティまたは SetPrnDataField メソッドで入力する発行枚数を 1 シート以内に変更してください。

例) 1 シート 4 面取りラベルの場合



## 変更する記述例

```
MLmeControlWeb.Setting = "LAN:192.168.1.1,1024";
⇒ WebComponent.Setting = "DRV:SATO SG412R-ex";
```

```
MLmeControlWeb.PrnData = "PT208e" + "¥t" + "490310000005" + "¥t" + "10";
⇒ WebComponent.PrnData = "PT208e" + "¥t" + "490310000005" + "¥t" + "4";
```

- 連番変数を利用したレイアウトは、プリンタドライバ以外では発行できません。Setting プロパティをプリンタドライバ出力に変更するか、1 枚ずつ発行する処理に変更してください。

## 変更する記述例

```
MLmeControlWeb.Setting = "LAN:192.168.1.1,1024";
⇒ WebComponent.Setting = "DRV:SATO SG412R-ex";
```

- プリンタドライバ出力時に Windows 7 では Output メソッドを実行する度に、一つ前の Output メソッドでスプールされたデータがプリンタに送信されていましたが、Windows 10 は OS の仕様



変更によりスプールデータが 256KB 毎に送信されます。すぐにプリンタにデータを送信するには、Output メソッド直後に ClosePort を実行してください。

## ■ExOutput

- 互換性のために動作しますが、SendStringData メソッドへ変更をお願い致します。
- 印字コマンドを送信する場合、1 アイテムとしてください。1 度に複数アイテムを送信した場合、2 つ目以降のアイテムに関しては MLWebComponent も MLWebEngine と同様にデータ送信が保証されません。

### 変更する記述例

```
MLmeControlWeb.ExOutputAckCheck = true;
Result = MLmeControlWeb.ExOutput( Command );
if ( Result != 0 ) {
    // エラー処理
}

⇒ try {
    Result = WebComponent.SendStringData( 0 , Command , 0 , "¥x06" );
} catch ( e ) {
    ErrorNumber = ( e.number & 0xffff ) - 512;
    // エラー処理
}
```

### 変更する記述例

```
MLmeControlWeb.ExOutputAckCheck = false;
Result = MLmeControlWeb.ExOutput( Command );
if ( Result == 0 ) {
    Length = MLmeControlWeb.ExInputCount;
    if ( Length > 0 ) {
        Status = MLmeControlWeb.ExInput( 0 , Length );
    }
} else {
    // エラー処理
}

⇒ try {
    Result = WebComponent.SendStringData( 0 , Command , Length , EndChr );
    // Result に格納されたデータの処理
} catch ( e ) {
    ErrorNumber = ( e.number & 0xffff ) - 512;
    // エラー処理
}
```

**Command** の内容に応じて受信する条件を、受信するバイト数 **Length** または特定のデータ **EndChr** で指定します。データを受信しない場合は、**Length** を「0」、**EndChr** を「''」（空文字）に設定してください。

#### ■ExInput、ExInputCount

- 互換性のために動作しますが、SendStringData メソッドもしくは SendRawData メソッドの戻り値で取得する処理へ変更をお願い致します。  
変更方法は「[SendStringData](#)」「[SendRawData](#)」をご参照ください。

#### ■GetStatusVB

- 名称を GetStatus に変更してください。
- 通信エラーのコードが変更になりました。エラー処理で使用している場合は変更してください。
 

1005 ⇒ 5	ポートがオープンされていません。
1007 ⇒ 7	ステータス要求送信中にエラーが発生しました。
1008 ⇒ 8	ステータス要求送信中にタイムアウトが発生しました。
1009 ⇒ 9	ステータス受信中にエラーが発生しました。
1010 ⇒ 10	ステータス受信中にタイムアウトが発生しました。

#### ■GetFile

- BASIC 認証が必要な Web サイトからダウンロードする場合は、GetFileCredential に変更してください。
- プロキシサーバに BASIC 認証が設定されている場合は、ダウンロードの前に SetProxyCredential メソッドを追加してください。

#### ■GetPrinter

- 取得データが[プリンタ番号]から[プリンタ機種名]に変更されました。数値型 (Integer など) で取得している場合は、文字列型 (String など) に変更してください。

#### ■GetHeaderLayoutFileVB

- ヘッダ札のパス情報を取得する場合は、HeaderFile プロパティへ変更をお願い致します。

#### 変更する記述例

```
HeaderLayout = MLmeControlWeb.GetHeaderLayoutFileVB();
⇒ HeaderLayout = WebComponent.HeaderFile;
```

- ヘッダ札の発行は、WebEngine では GetHeaderLayoutFileVB メソッドで取得したヘッダ用レイアウトファイルのパスを LayoutFile プロパティに設定して、Output メソッドで行いましたが、WebComponent では OutputHeader メソッドだけで利用できます。LayoutFile プロパティに設定されたボディ用レイアウトファイルから情報を自動的に読み取り、ヘッダ札の発行を行います。

**変更する記述例**

```

MLmeControlWeb.LayoutFile = "C:¥¥sato¥¥body.mllay";
HeaderLayout = MLmeControlWeb.GetHeaderLayoutFileVB();
If ( HeaderLayout != "" ) {
    MLmeControlWeb.LayoutFile = HeaderLayout;
    MLmeControlWeb.PrnData = inputData;
    Result = MLmeControlWeb.Output();
    if ( Result != 0 ) {
        // エラー処理
    }
} else {
    // エラー処理
}

```

```

⇒ WebComponent.LayoutFile = "C:¥¥sato¥¥body.mllayx";
WebComponent.PrnData = inputData;
Result = WebComponent.OutputHeader();
If ( Result != 0 ) {
    // エラー処理
}

```

**■GetTailLayoutFileVB**

- テール札のパス情報を取得する場合は、TailFile プロパティへ変更をお願い致します。

**変更する記述例**

```

TailLayout = MLmeControlWeb.GetTailLayoutFileVB();
⇒ TailLayout = WebComponent.TailFile;

```

- テール札の発行は、WebEngine では GetTailLayoutFileVB メソッドで取得したテール用レイアウトファイルのパスを LayoutFile プロパティに設定して、Output メソッドで行いましたが、WebComponent では OutputTail メソッドだけで利用できます。LayoutFile プロパティに設定されたボディ用レイアウトファイルから情報を自動的に読み取り、テール札の発行を行います。

**変更する記述例**

```

MLmeControlWeb.LayoutFile = "C:¥¥sato¥¥body.mllay";
TailLayout = MLmeControlWeb.GetTailLayoutFileVB();
if ( TailLayout != "" ) {
    MLmeControlWeb.LayoutFile = TailLayout;
    MLmeControlWeb.PrnData = inputData;
    Result = MLmeControlWeb.Output();
    if ( Result != 0 ) {
        // エラー処理
    }
}

```

```
    }  
  } else {  
    // エラー処理  
  }
```

```
⇒ WebComponent.LayoutFile = "C:¥¥sato¥¥body.mllayx";  
   WebComponent.PrnData = inputData;  
   Result = WebComponent.OutputTail();  
   if ( Result != 0 ) {  
     // エラー処理  
   }
```

#### ■GetInputCountVB

- 名称を GetInputCount に変更してください。機能に変更はございません。

#### ■GetInputFieldsVB

- 名称を GetInputFields に変更してください。機能に変更はございません。

## 6

### メソッドを削除する

#### ■AboutBox

コード上から削除が必要なメソッドについて説明します。

#### ■AboutBox

- バージョン確認は Version プロパティをご利用ください。バージョン番号を文字列として返送するため、アプリケーションで自由に編集して利用可能です。

#### 変更する記述例

```
MLmeControlWeb.AboutBox();  
⇒ alert ( WebComponent.Version );
```

```
MLmeFileAccessControl.AboutBox();  
⇒ alert ( FileAccessComponent.Version );
```

## 第2章

# 新機能

## 7

## 新機能を確認する

■プロパティ一覧 ■メソッド一覧

WebEngine から新規に追加された機能、拡張された機能を説明します。

## 一覧の分類

◎：新しく追加された機能です。

○：拡張された機能です。

変更がない機能は一覧に載せていません。

## ■WebComponent プロパティ一覧

プロパティ名	概要	分類
<b>通信設定</b>		
Setting	通信パラメータの設定	○
<b>基本設定</b>		
PrnData	印字データの設定	○
PrnDataType	印字データタイプの設定	◎
<b>プリンタ動作設定</b>		
MultiCut	カット指定の設定	○
EjectCut	排出カットの設定	◎
SortMark	仕分けマーク印字の設定	◎
HeaderTailSetting	ヘッダ・テール札の設定	◎
HeaderFile	ヘッダ札の取得	◎
TailFile	テール札の取得	◎
<b>特殊設定</b>		
Formoverlay	フォームオーバーレイの設定	○
LayoutNameCaption	「レイアウト名」の設定	○
TotalQtyCaption	「総発行枚数」の設定	○
TaxRate	税率の設定	○
<b>バージョン情報</b>		
Version	バージョン情報の取得	◎

## ■WebComponent メソッド一覧

メソッド名	概要	移行
<b>レイアウト情報取得</b>		
GetLayoutFileProperty	レイアウト情報の取得	◎
<b>発行</b>		
Output	ラベル発行	○
OutputHeader	ヘッダ札発行	◎
OutputTail	テール札発行	◎
SendStringData	プリンタコマンドの送信(終了条件指定)	◎
SendRawData	プリンタコマンド(バイナリ)の送信(終了条件指定)	◎
<b>印字データ指定</b>		
GetInputFields	入力情報の取得	○
GetPrnDataRowCount	複数データの行数取得	◎
GetPrnDataRow	複数データの取得	◎
SetPrnDataRow	複数指定の 1 行分のデータ設定	◎
<b>プリンタドライバ制御</b>		
GetDriverNameList	プリンタドライバ名の取得	◎
ClearPrintJob	プリンタドライバの印刷ジョブの削除	◎
<b>デバイス制御</b>		
EnumerateBluetoothDevices	Bluetooth デバイスの検索	◎
AuthenticateBluetoothDevice	Bluetooth デバイスのペアリング	◎
<b>ライセンス認証</b>		
Authenticate	ライセンス認証の実行	◎

## ■FileAccessComponent プロパティ一覧

プロパティ名	概要	移行
<b>基本設定</b>		
FileDataType	ファイルのデータタイプの設定	◎
<b>バージョン情報</b>		
Version	バージョン情報の取得	◎

## ■FileAccessComponent メソッド一覧

変更はございません。



## 8

## 新しいプロパティを利用する

■Setting ■PrnData、PrnDataType ■MultiCut ■EjectCut ■SortMark

WebEngine から追加・拡張されたプロパティを説明します。

## ■Setting

- インターフェース出力で USB、Bluetooth に対応しました。USB はプリンタドライバを利用しないラベル発行が可能です。Bluetooth は仮想 COM ポートを必要とせずラベル発行が可能で、デバイスの検索・ペアリングもできます。

## 記述例 (USB)

```
WebComponent.Setting = "USB:";  
WebComponent.Setting = "USB:SG412R";  
WebComponent.Setting = "USB:Lesprit412v,0000T123";
```

## 記述例 (Bluetooth)

```
MLComponent.Setting = "BT: 000b5db4aebb";
```

- LAN の[ポート番号]が省略可能になりました。海外プリンタを利用する場合やプリンタのポート番号が変更されている特殊な運用以外では指定する必要がありません。
- COM の[ポート番号]と[ボーレート]が拡張されました。  
[ポート番号] : 1 桁以上の番号指定  
[ボーレート] : 最大値 115200

## ■PrnData、PrnDataType

- 文字のフォーマットが Unicode に対応しました。中国語や韓国語など多言語のデータが入力可能です。WebEngine 同様に Shift-JIS も利用可能です。
- 区切り文字のカンマ、スペースに対応しました。PrnDataType プロパティでカンマ区切りは「1」、スペース区切りは「2」を指定して利用します。カンマ区切りは括り文字「」も利用可能です。

## ■MultiCut

- WebEngine では OutCut プロパティと合わせて設定した「プリンタ本体の動作に従う」動作が、MutilCut プロパティに「-1」を指定するだけで利用可能になりました。
- レイアウトファイルのカット動作設定が利用可能になりました。MutilCut プロパティに「-2」を指定して利用します。

### ■EjectCut

- WebEngine の OutCut プロパティから「プリンタ本体の動作に従う」機能を取り除いた機能です。論理型（Boolean など）で排出カットの有効・無効を切替えます。

### ■SortMark

- WebEngine の Siwake プロパティと同一機能です。名称のみ変更されました。

### ■HeaderTailSetting

- プリンタドライバ出力を利用した場合に、Output メソッド実行時にレイアウトファイルのヘッダ・テール札出力設定に従って自動的にヘッダ札、テール札を発行します。

### ■HeaderFile

- WebEngine の GetHeaderLayoutFile メソッドと同等機能ですが、値は参照型の引数ではなく、戻り値で取得します。

### ■TailFile

- WebEngine の GetTailLayoutFile メソッドと同等機能ですが、値は参照型の引数ではなく、戻り値で取得します。

### ■Formoverlay

- プリンタドライバ出力を利用し、連番変数や複数のデータを指定して発行する場合に、始めに固定項目を登録して、印字データは可変項目のみで送信する機能に対応しました。Formoverlay プロパティに「3」を指定して利用します。

### ■LayoutNameCaption

- LayoutFile プロパティに設定されたレイアウトファイルから自動的に名称を取得する機能に対応しました。LayoutNameCaption プロパティに「'''」（空文字）を指定して利用します。

### ■TotalQtyCaption

- Output メソッド実行時に自動的に発行枚数を計算する機能に対応しました。TotalQtyCaption プロパティに「0」を指定して利用します。

### ■TaxRate

- MLV5 で税率を最大 20 件まで登録できる機能が追加されました。TaxRate プロパティもカンマ区切りで複数の税率を設定可能です。

### ■Version

- WebEngine、FileAccessControl の AboutBox メソッドで表示されていたバージョン情報が文字列で取得できます。アプリケーション開発時と違うバージョンの WebComponent、FileAccessComponent が利用された場合にエラー表示するなど取得した文字列を自由に加工してご利用ください。

### ■FileType (FileAccessComponent)

- Delimiter で指定していた区切り文字のタブ、カンマにスペースを加えて名称を変更しました。スペース区切りは「2」を指定して利用します。

## 9

## 新しいメソッドを利用する

■Output、SetPrnDataRow ■OutputHeader ■OutputTail ■SendStringData

WebEngine から追加・拡張されたメソッドを説明します。

## ■GetLayoutFileProperty

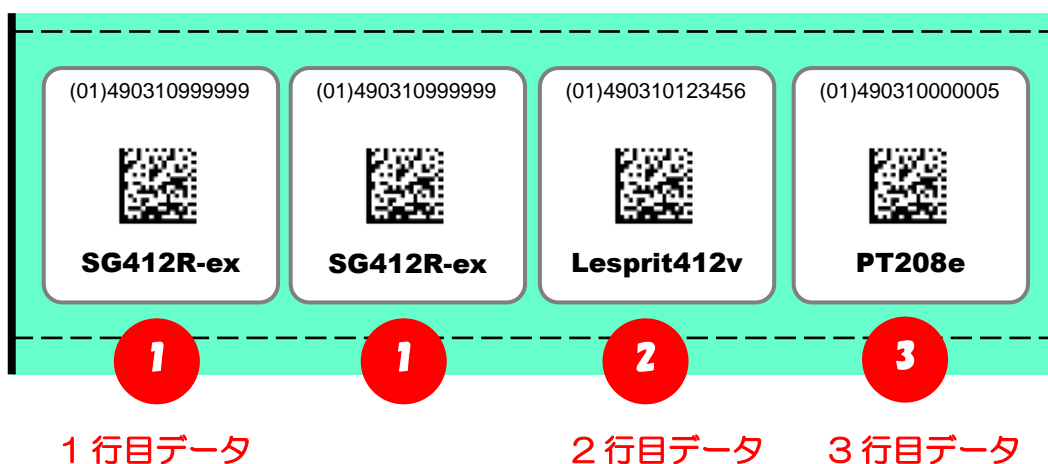
- レイアウトファイルに保持している用紙情報（センサタイプ、サイズ）、多面取り設定の 1 シートの枚数、グローバル情報ファイルのパスが取得できます。レイアウトファイルを変更したタイミングでサイズをチェックし、用紙の交換を促すメッセージを表示するなどの運用でご活用ください。

## ■Output、SetPrnDataRow

- プリンタドライバ出力を利用した場合に、SetPrnDataRow メソッドで複数のデータを入力して発行する機能に対応しました。同じレイアウトファイルで異なるデータを入力する際にご利用ください。
- 多面取り（小ラベルモード）で作成したレイアウトファイルをプリンタドライバ出力で利用する場合、SetPrnDataRow メソッドで異なるデータを 1 シートに入力することができます。

## 記述例

```
WebComponent.SetPrnDataRow("SG412R-ex" + "¥t" + "490310999999" + "¥t" + "2");
WebComponent.SetPrnDataRow("Lesprit412v" + "¥t" + "490310123456" + "¥t" + "1");
WebComponent.SetPrnDataRow("PT208e" + "¥t" + "490310000005" + "¥t" + "1");
WebComponent.Output();
```



## ■OutputHeader

- LayoutFile プロパティに指定されたレイアウトファイルに設定されたヘッダ札を発行します。
- GetHeaderLayoutFile メソッドと Output メソッドを組み合わせた発行方法から移行してください。

## ■OutputTail

- LayoutFile プロパティに指定されたレイアウトファイルに設定されたテール札を発行します。
- GetTailLayoutFile メソッドと Output メソッドを組み合わせた発行方法から移行してください。

#### ■SendStringData

- 文字列で指定したプリンタコマンド（SBPL）をプリンタに送信します。
- ExOutput メソッド、ExInput メソッド、ExInputCount メソッド、ExOutputAckCheck を組み合わせた発行方法から移行してください。

#### ■GetInputFields

- 入力項目の[初期値]が取得可能になりました。レイアウトで設定された初期値をアプリケーションの初期値として利用できます。
- MLV5 で[入力チェック]の組み合わせが可能になったため、GetInputFields メソッドの[入力チェック]が[入力チェック]と[その他チェック]に分かれて取得可能になりました。

#### ■GetPrnDataRowCount 、 GetPrnDataRow

- 複数データ指定の SetPrnDataRow メソッドで設定されたデータを取得します。正しく設定できたか確認する際にご利用ください。

#### ■GetDriverNameList

- PC にインストールされているプリンタドライバの一覧を取得できます。プリンタドライバ出力で出力先を画面に表示する際にご利用ください。

#### ■ClearPrintJob

- プリンタドライバの印刷ジョブを全て削除できます。プリンタドライバ出力で印刷をキャンセルする場合にご利用ください。

#### ■EnumerateBluetoothDevices

- 周辺のBluetooth デバイスを検索できます。AuthenticateBluetoothDevice と共に利用することで、アプリケーションで検索からペアリングまで実現可能です。

#### ■AuthenticateBluetoothDevice

- 指定したBluetooth デバイスのペアリングが実行できます。EnumerateBluetoothDevices と共に利用することで、アプリケーションで検索からペアリングまで実現可能です。

#### ■Authenticate

- WebComponent を利用するために必要です。「認証キー」と「ライセンスファイル」でライセンス認証を実行してください。